環 境 経 営 レ ポ ー ト

－６３期(2023/7～2024/6)－

２０２４年１０月２１日

コーラゴーキン株式会社

（複製承認印省略）

コーラゴーキン株式会社63期(2023/7～2024/6)環境経営レポート

　コーラゴーキン株式会社は、環境活動の取組みとして２００６年８月に『エコアクション２１』の認証・登録されました。
　夏季・冬季の節電（デマンドのピークカット）は、エンジンコンプレッサーを使用し、デマンド管理を実施しています。
　『環境経営レポート』には、２０１７年版へ移行により２０２４年７月以降の内容も追記してあります。

目　次

Ⅰ. 組織の概要 …… Ｐａｇｅ２～ｐａｇｅ３
Ⅱ. 対象範囲 …… Ｐａｇｅ４
Ⅲ. 環境経営方針 …… Ｐａｇｅ５
Ⅳ. 環境目標とその実績 …… Ｐａｇｅ６～ｐａｇｅ14
Ⅴ. 主要な環境活動計画の内容 …… Ｐａｇｅ15
Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価 …… Ｐａｇｅ16～ｐａｇｅ25
Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟の有無 …… Ｐａｇｅ26～ｐａｇｅ27
Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果 …… Ｐａｇｅ28
Ⅸ. 次年度の取組内容 …… Ｐａｇｅ28

コーラゴーキン株式会社 63期(2023/7～2024/6)環境経営レポート

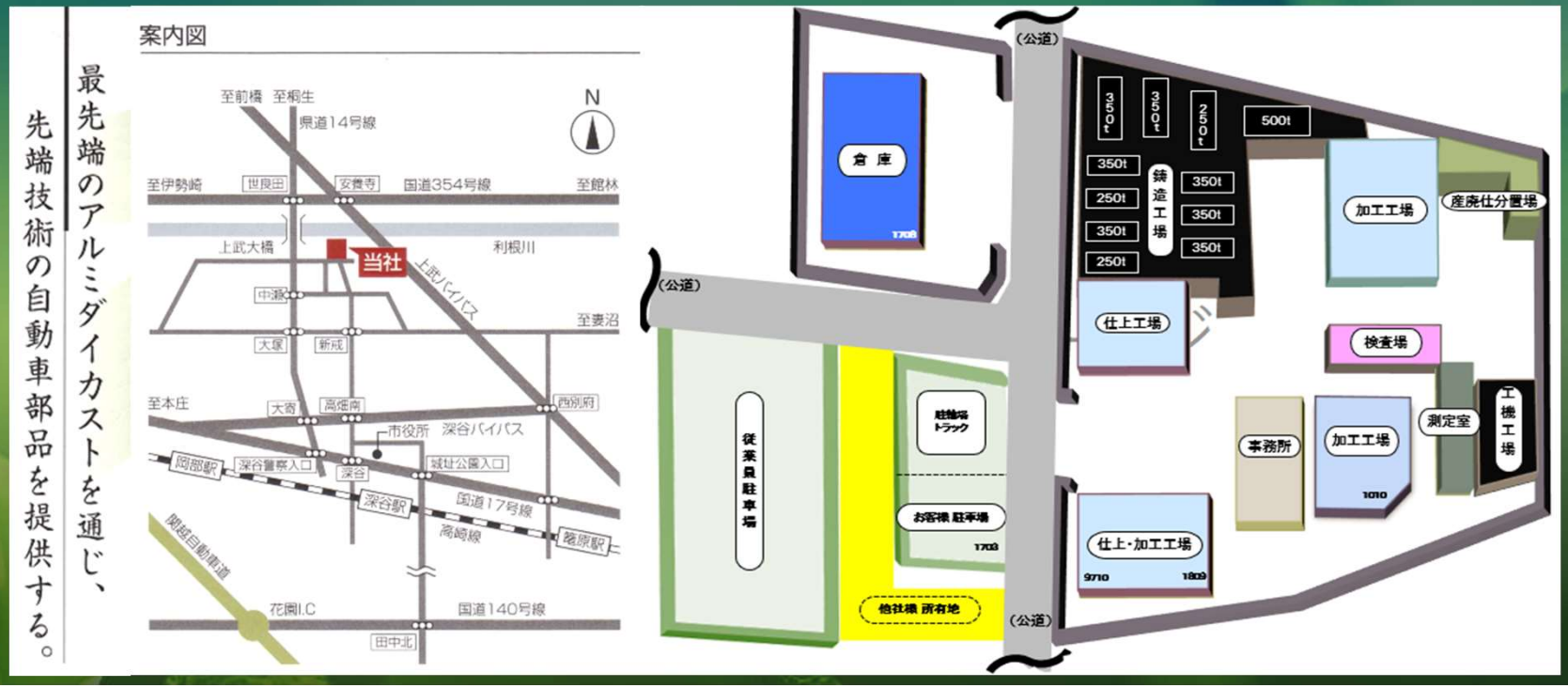
Ⅰ．組織の概要

１．事業所名及び代表者の氏名

コーラゴーキン株式会社　本社工場
代表取締役社長　　小浦　利一郎

２．所在地

〒３６６－０００１
埼玉県深谷市中瀬５５０番地１



Ⅰ．組織の概要

３．環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：総務課長　島﨑　宏
担当者(EA21事務局長)：総務課長　島﨑　宏
(EA21事務局員)：総務課員　木山　美空
連　絡　先　：ＴＥＬ　０４８－５８７－２１４６（代）
ＦＡＸ　０４８－５８７－２２１３
ＵＲＬ　https://www.cola-gokin.co.jp/

４．事業活動の内容

当社は、アルミダイカスト製品（自動車部品・通信電機器具等）を９種類のアルミニウム合金の材質を使用し、鋳造工法も多岐にわたり、その鋳造から仕上げ・機械加工までの一貫体制を整え、多くのお客様に納入しています。

５．事業の規模

事業の規模	単位	60期 (2020/7～2021/6)	61期 (2021/7～2022/6)	62期 (2022/7～2023/6)	63期 (2023/7～2024/6)
原材料購入量	t	2,089	1,874	1,922	2,036
売上高	百万円	1,562	1,577	1,607	1,768
従業員(派遣含まず)	人	67	61	60	60
派遣社員	人	34	35	38	41
床面積	㎡	3,814	3,814	3,814	3,814

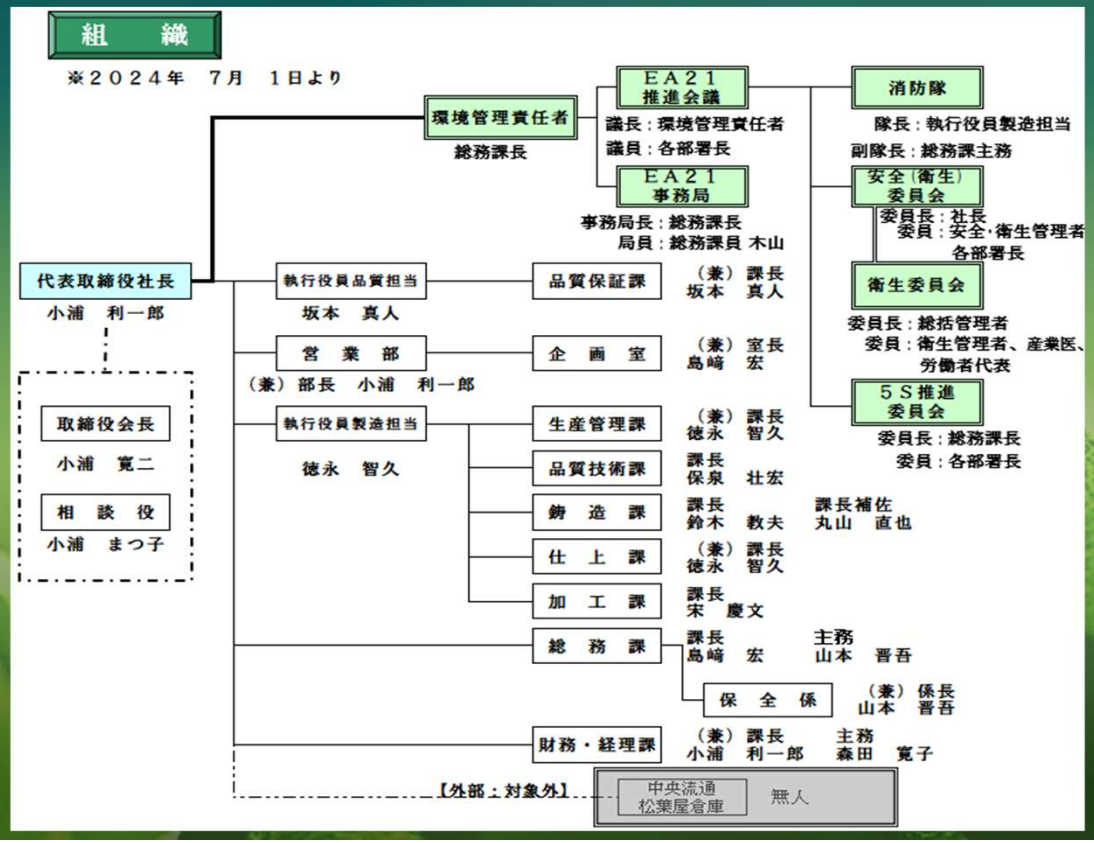
Ⅱ. 対象範囲(認証･登録範囲)

１．活動範囲

アルミダイカスト製品（自動車用、通信電機器具用等）の製造

２．エコアクション２１の推進体制

当社のエコアクション２１（ＥＡ２１）を運用する為の組織を下記のとおり制定し、推進しています。



ＥＡ21推進会議
メンバーです。

Ⅲ. 環境経営方針

《基本理念》

当社は、社会の一員として『地球環境保全』が、全生命に共通する課題であることを認識し、法令順守はもとより、『経営基本方針』の一つである『時流変革主義』に基づき、経営における課題とチャンスを踏まえ、時流に乗り遅れることなく、事業活動の全領域にて、環境保全に配慮し、行動することにより、継続的改善を図り、変転する市場とお客様に信頼される企業を目指します。

《行動指針》

当社は、事業活動“アルミダイカスト製品（自動車用、通信電機器具用等）の製造”の全領域で、環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で、環境に優しい活動を推進します。また、お客様への部品の提供を通じ、社会に貢献することを目指します。

1．　省資源、省エネルギーの推進を図ります。
2．　環境関連法令を遵守します。
3．　次の事項を重要な課題として、環境目標を設定します。顧客ニーズの多様化へ対応する為に、一貫生産や多様な工法の提案などの効果的な取り組みを行います。
　（1）　二酸化炭素排出量の削減
　（2）　廃棄物排出量の削減
　（3）　排水量の削減
4．　有害化学物質使用状況の把握とその適正管理を行います。
5．　『環境経営方針』の周知徹底を含む、環境教育を実施し、全社員の環境意識の向上を図ります。

経営方針及び品質方針と共に、各職場に掲示しています。

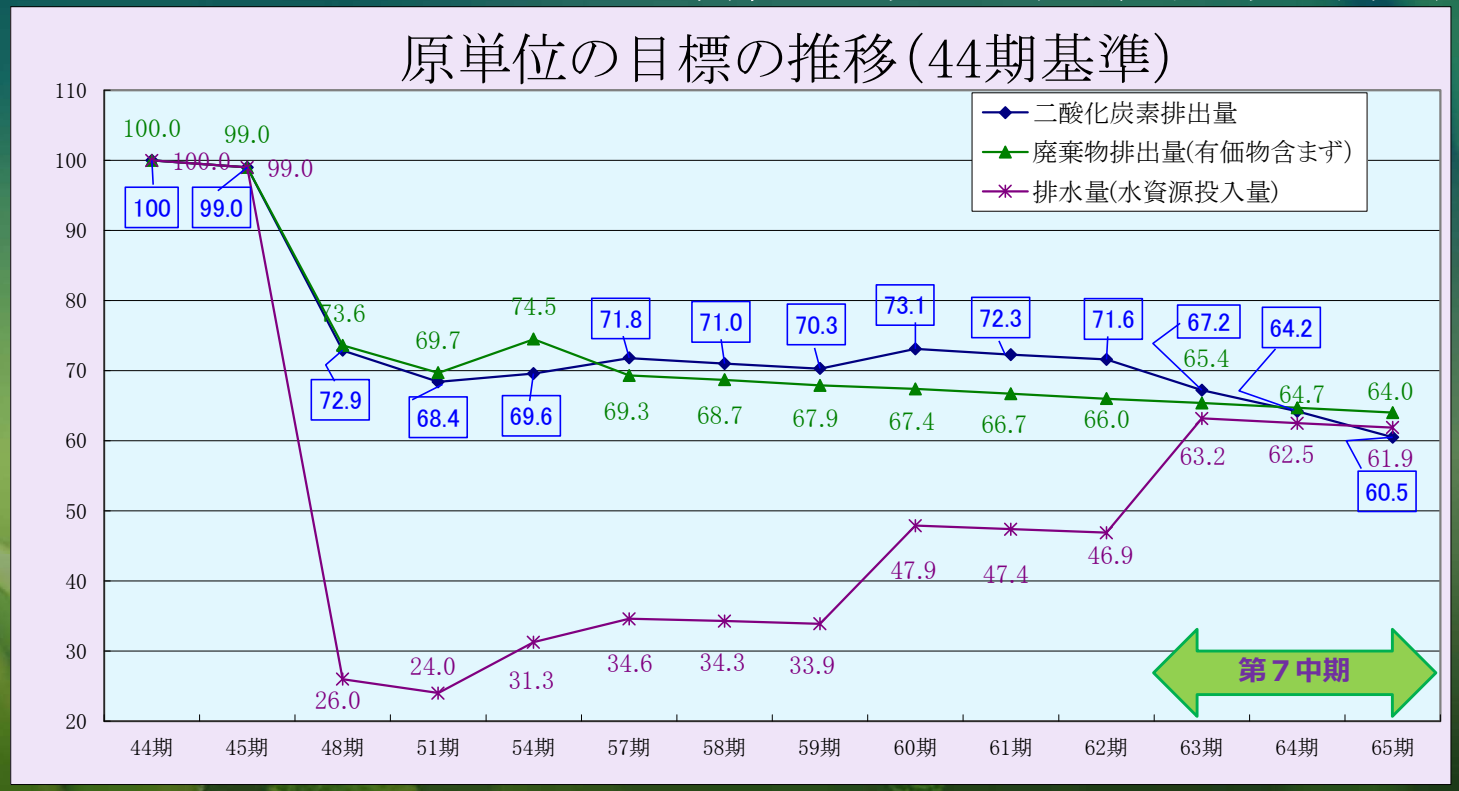
最終改訂日２０２２年　７月２０日
制　定　日２００５年１１月１０日
コーラゴーキン株式会社
代表取締役　社長

小浦　利一郎

Ⅳ. 環境目標とその実績

４４期に活動をスタートして６２期(2022/7～2023/6)にて１８年が経過しました。
当社における第５中期(2017/7～2020/6)及び水資源のみ、第６２期(2022/7～2023/6)の環境負荷実績に基づき、第７中期(2023/7～2026/6) ３年間の目標を見直し、各項目毎に目標を定め、活動しています。

原単位：生産額当たり（４７期に売上額より見直し）



※化学物質使用量の削減目標は、該当する物質の使用がない為、設定はしていません。

コーラゴーキン株式会社 63期(2023/7～2024/6)環境経営レポート

Ⅳ. 環境目標とその実績

１．二酸化炭素排出量（エネルギー消費）の目標とその実績（※1）

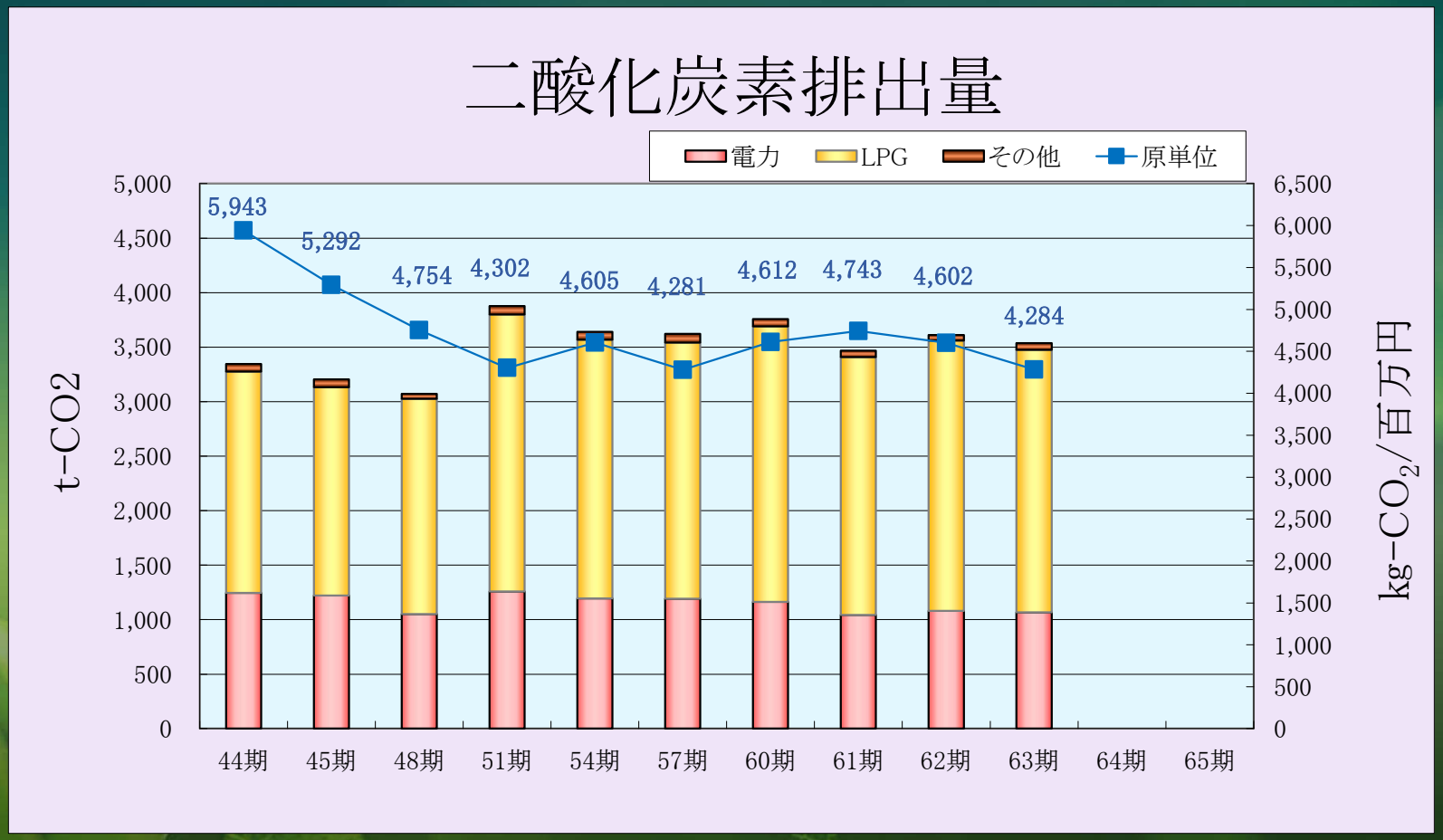
	単　位		基準値（第５中期）	６０期（2020/7～2021/6）	６１期（2021/7～2022/6）	６２期（2022/7～2023/6）
第６中期計画	t-CO_2	実績	3,662	3,758	3,468	3,611
	(原単位) kg-CO_2/百万円	目標	―	4,340（▲1%）	4,296（▲2%）	4,252（▲3%）
		実績	4,386	4,612	4,743	4,602
	結　果					

	単　位		基準値（第５中期）	６３期（2023/7～2024/6）	６４期（2024/7～2025/6）	６５期（2025/7～2026/6）
第７中期計画	t-CO_2	実績	3,662	3,537		
	(原単位) kg-CO_2/百万円	目標	―	3,991（▲9%）	3,815（▲13%）	3,596（▲18%）
		実績	4,386	4,284		
	結　果					

（※１）二酸化炭素排出量については、ＬＰＧの排出係数は、「0.0161 tC/GJ」、電力の排出係数のデフォルト値を「0.495kg-CO_2/kWh」にて再算定してあります。

Ⅳ. 環境目標とその実績

２．二酸化炭素排出量の推移



Ⅳ. 環境目標とその実績

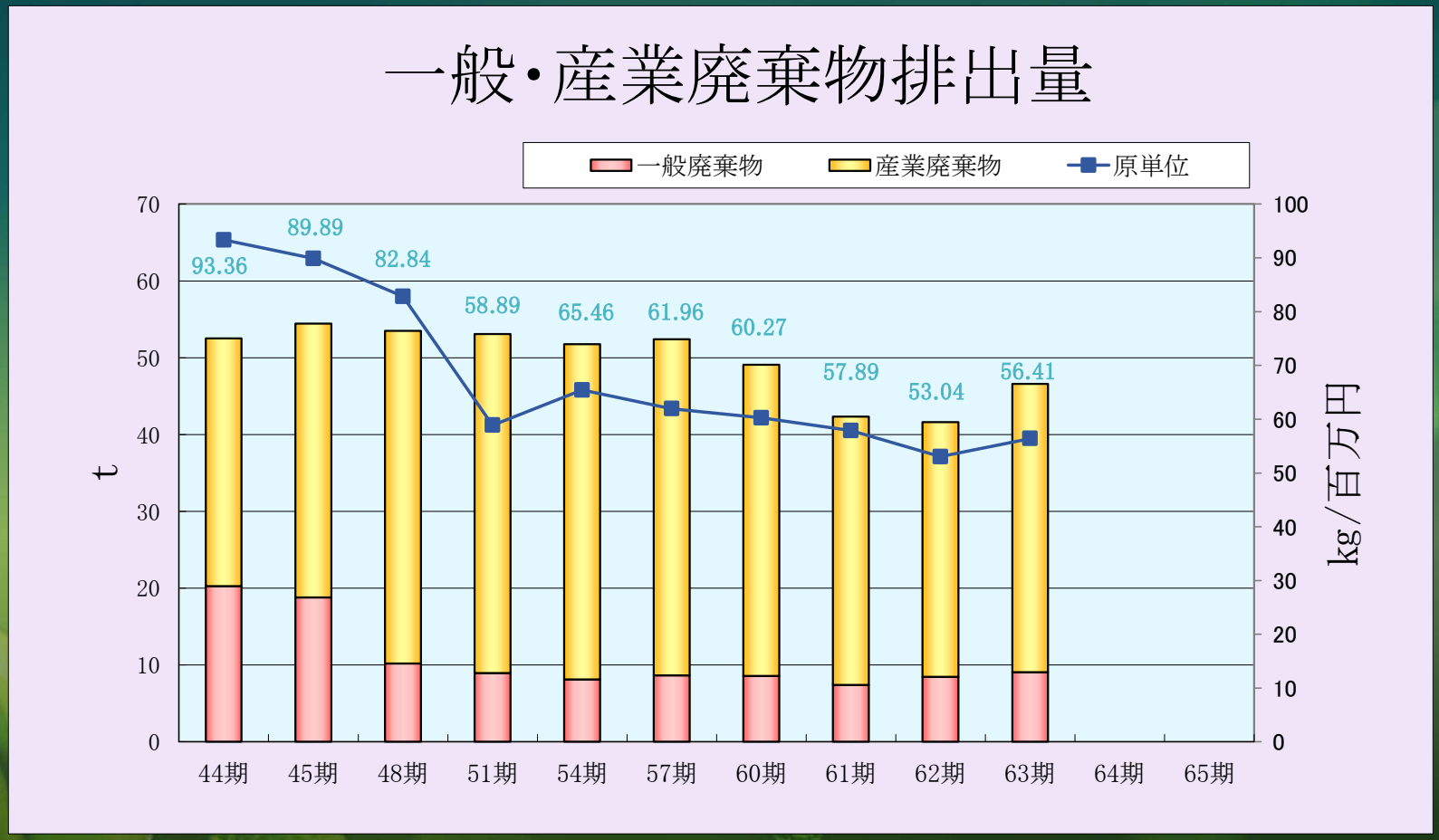
３．廃棄物排出量(有価物含まず)

	単　位		基準値(第５中期)	６０期(2020/7～2021/6)	６１期(2021/7～2022/6)	６２期(2022/7～2023/6)
第６中期計画	t	実績	53.64	49.10	42.3	41.6
	(原単位) kg/百万円	目標	―	62.96(▲2%)	62.31(▲3%)	61.67(▲4%)
		実績	64.24	60.27	57.9	53.0
	結　果					

	単　位		基準値(第５中期)	６３期(2023/7～2024/6)	６４期(2024/7～2025/6)	６５期(2025/7～2026/6)
第７中期計画	t	実績	53.64	46.58		
	(原単位) kg/百万円	目標	―	61.03(▲5%)	60.39(▲6%)	59.74(▲7%)
		実績	64.24	56.41		
	結　果					

Ⅳ. 環境目標とその実績

４．廃棄物排出量の推移



Ⅳ. 環境目標とその実績

５．産業廃棄物の詳細

種　　類	44期	48期	51期	54期	57期
廃油・含油水(t)	10.70	38.10	32.03	35.96	37.83
廃プラスチック(t)	2.14	3.58	6.17	4.23	2.64
木くず(t)	3.36	1.58	3.40	1.48	0.33
煉瓦くず(t)	0.29	0.74	2.34	1.96	0
汚泥(t)	0	0	0.18	0	2.96
金属くず(t)	15.79	5.31	0	0	0
合　　計	32.28	43.31	44.12	43.63	43.76

増　加

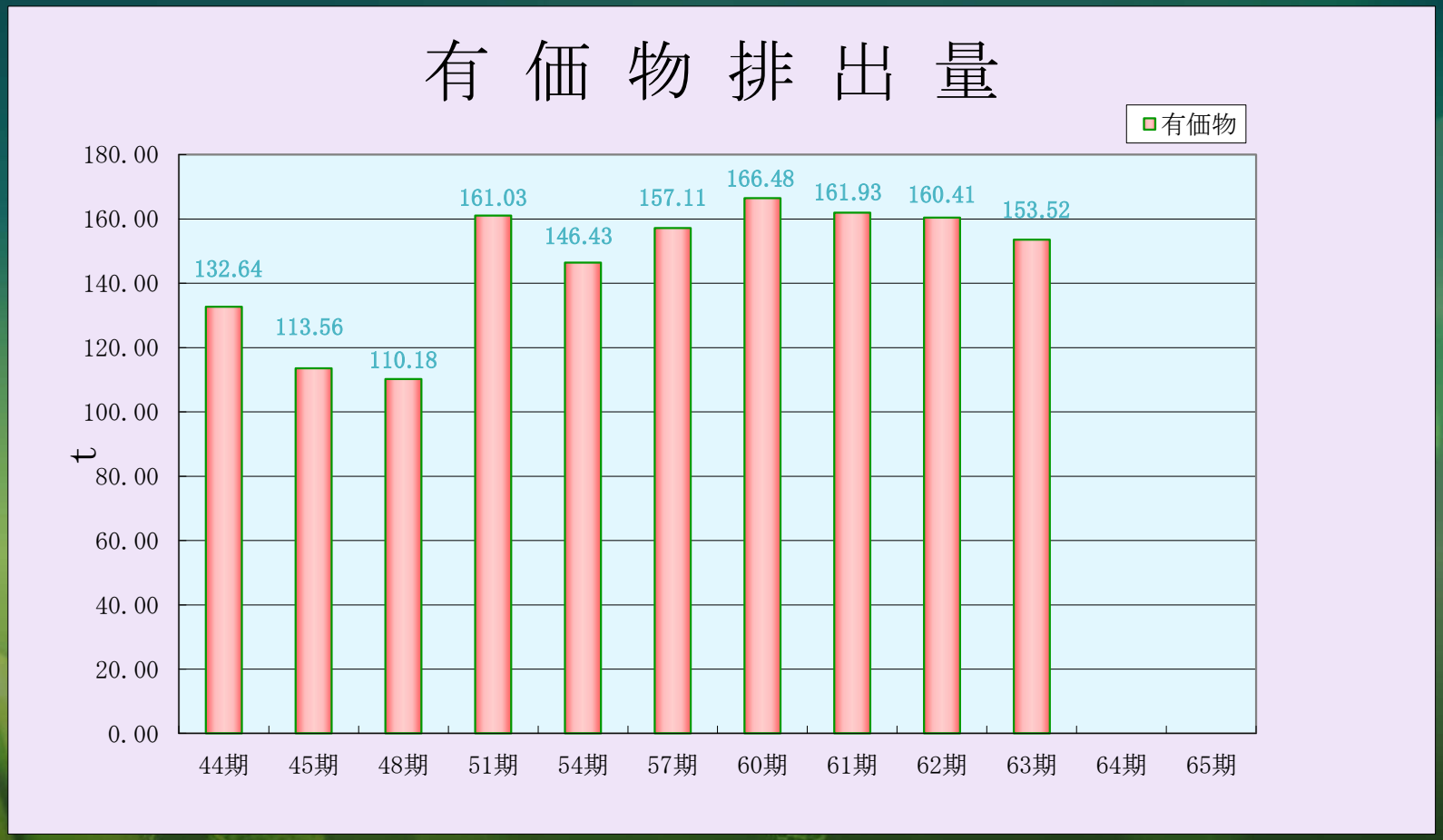
減　少

排出無

種　　類	基準(第5中期)	60期	61期	62期	63期	64期	65期
廃油・含油水(t)	38.93	31.01	28.33	27.04	29.81		
廃プラスチック(t)	3.75	4.99	3.14	3.12	4.56		
木くず(t)	0.61	0.93	0	0	0		
煉瓦くず(t)	0.09	0.23	0	0	0		
汚泥(t)	0.99	3.37	3.47	3.01	3.14		
金属くず(t)	0	0	0	0	0		
その他(t)	0	0	0	0	0		
合　　計	44.36	40.53	34.94	33.17	37.51		

Ⅳ. 環境目標とその実績

６．有価物排出量の推移



Ⅳ. 環境目標とその実績

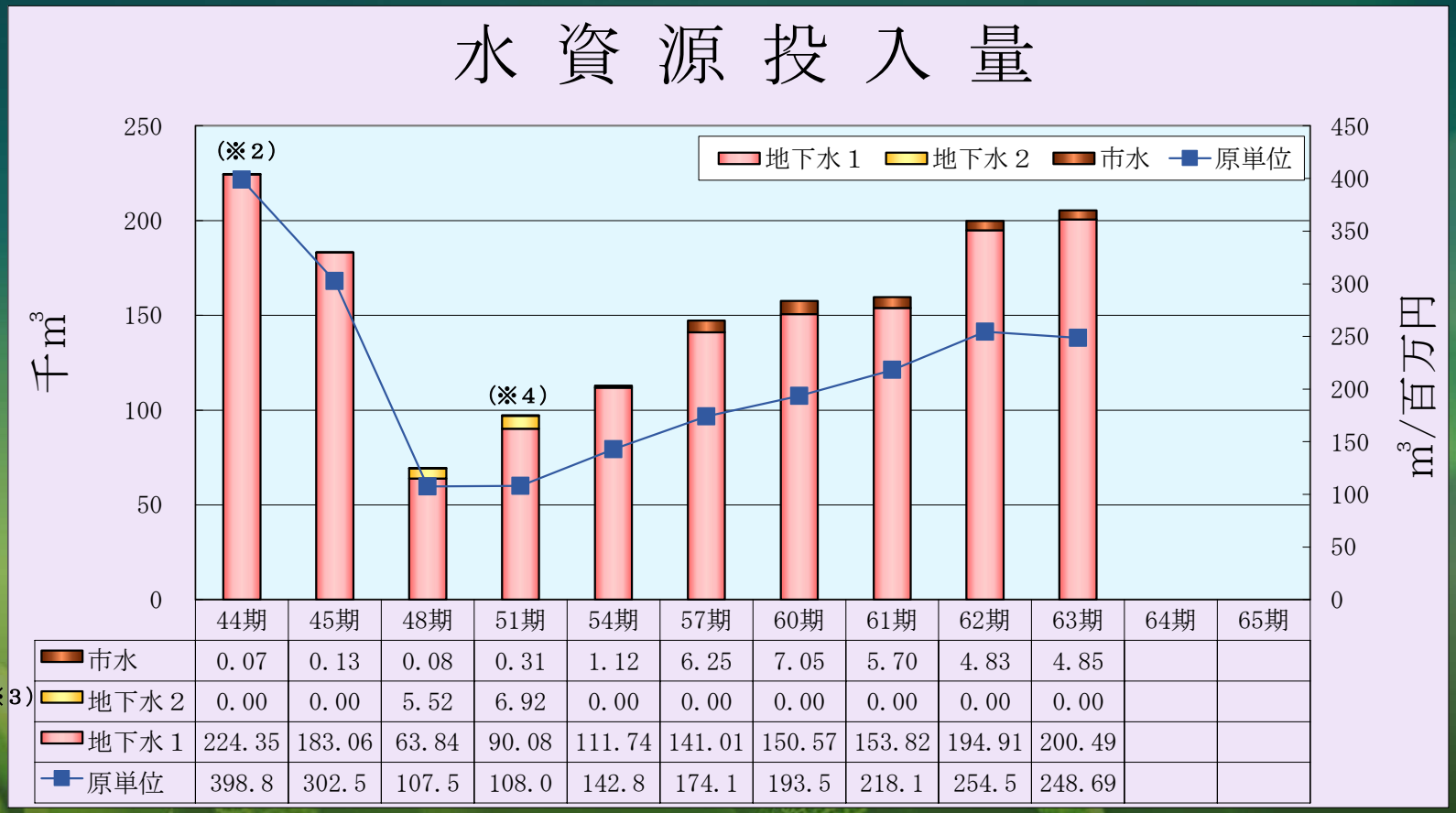
７．水資源投入量(総排水量)

	単　位		基準値(第５中期)	６０期(2020/7～2021/6)	６１期(2021/7～2022/6)	６２期(2022/7～2023/6)
第６中期計画	千m³	実績	161.1	157.6	159.5	199.7
	(原単位) m³/百万円	目標	―	191.1(▲1%)	189.1(▲2%)	187.2(▲3%)
		実績	193.0	193.5	218.1	254.5
	結　果					

	単　位		基準値(第６２期)	６３期(2023/7～2024/6)	６４期(2024/7～2025/6)	６５期(2025/7～2026/6)
第７中期計画	千m³	実績	199.7	205.3		
	(原単位) m³/百万円	目標	―	252.0(▲1%)	249.4(▲2%)	246.9(▲3%)
		実績	254.5	248.7		
	結　果					

Ⅳ. 環境目標とその実績

８．水資源投入量の推移



	44期	45期	48期	51期	54期	57期	60期	61期	62期	63期	64期	65期
市水	0.07	0.13	0.08	0.31	1.12	6.25	7.05	5.70	4.83	4.85		
(※３) 地下水２	0.00	0.00	5.52	6.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
地下水１	224.35	183.06	63.84	90.08	111.74	141.01	150.57	153.82	194.91	200.49		
原単位	398.8	302.5	107.5	108.0	142.8	174.1	193.5	218.1	254.5	248.69		

(※２)排水量(水資源投入量）の原単位は、４４期記録がない為、４５期実績にて算出してあります。
(※３）２００８年８月に休止していた井戸の使用を再開しましたが、２０１３年４月に休止しました。
(※４)夏季の節電対策の為、５２期より検査場屋根に散水を開始しました。

Ⅴ. 主要な環境活動計画の内容

１．二酸化炭素排出量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

二酸化炭素排出量は、第５中期実績に対して、今期：９％以上の削減を目標としています。
尚、主要な項目としては、第５中期実績より全体の９８．０％を占めている、購入電力（３１．９％）、ＬＰＧ（６６．１％）の２項目としています。

（１）設備稼働率の向上を図るため、専任者の保全活動
（２）コンプレッサーの稼動状況の管理と点検・修理を実施(エアー漏れ対策)
（３）溶解(保持)炉の効率向上は、ガス・空気の比率の見直しを実施(更新・補修を含む)
（４）ダイカストマシン及び周辺機器の更新

《ＭＥＭＯ》
鋳造設備が停止していても、溶解(保持)炉は、アルミ合金の溶湯温度を保持する為に、常に稼動している。

鋳造設備の停止が、５日以上の場合には、溶湯を汲出し、炉を原則停止とします。

２．廃棄物排出量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

廃棄物排出量は、第５中期実績に対して、今期：５％以上の削減を目標とし、飲料水の自動販売機(外部業者)による廃棄物は、４５期より適用除外としています。

（１）木パレ納入業者への返却の徹底
（２）ダンボールの再利用
（３）資源ごみの産業廃棄物から有価物での処理

適用除外

３．水資源投入量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

水資源投入量は、第６２期実績に対して、今期：１％以上の削減を目標としています。

（１）冷却水循環施設による金型冷却に使用した水の再利用を実施
（２）節水の徹底、『無駄遣い防止』の掲示
（３）散水・放流方法（量・時間等）の見直し

揚水機水量計

４．法令遵守の整備

（１）必要な資格の整備
（２）届出の確認（届出の提出）
（３）資格等の取得（教育）

５．有害化学物質使用状況の把握とその適正管理

（１）ＳＤＳ（安全データシート）等による確認（新規購入品は、事前確認）

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

１．二酸化炭素排出量の削減

（１）設備稼働率の向上を図るため、専任者の保全活動をしました。
改組して総務課に保全係を移動しました。（２０１０年７月）

（２）専任者によるコンプレッサーの稼動状況の管理と点検を実施しました。
定期巡回によるエアー漏れの点検・修理を実施しています。

コンプレッサー100馬力を(奥が、2017年9月、手前が、2016年2月)更新しました。

コンプレッサー50馬力を(2017年1月)75馬力に増強し、新設しました。

エンジンコンプレッサーを(2011年7月)新設しました。

ペーパーライザー1台を(2011年9月)更新しました。

（３）溶解(保持)炉の効率は、ガス量、空気量の比率の見直しを実施しています。
溶解(保持)炉の更新については、２０２３年８月に１基、９月に１基を実施しました。
溶解(保持)炉の補修については、２０２３年８月に５基、１０月に１基、１２月に７基、２０２４年２月に１基、４月に９基、６月に１基を実施しました。
※気体密度（購入量：ｔ/使用量：㎥）として監視してます。

（４）夏季・冬季の節電については、電灯の間引き、エアコンの設定温度及び使用制限、エンジンコンプレッサーの使用でデマンドのピークカットを実施しました。

バルクタンク(2011年12月)更新しました。

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

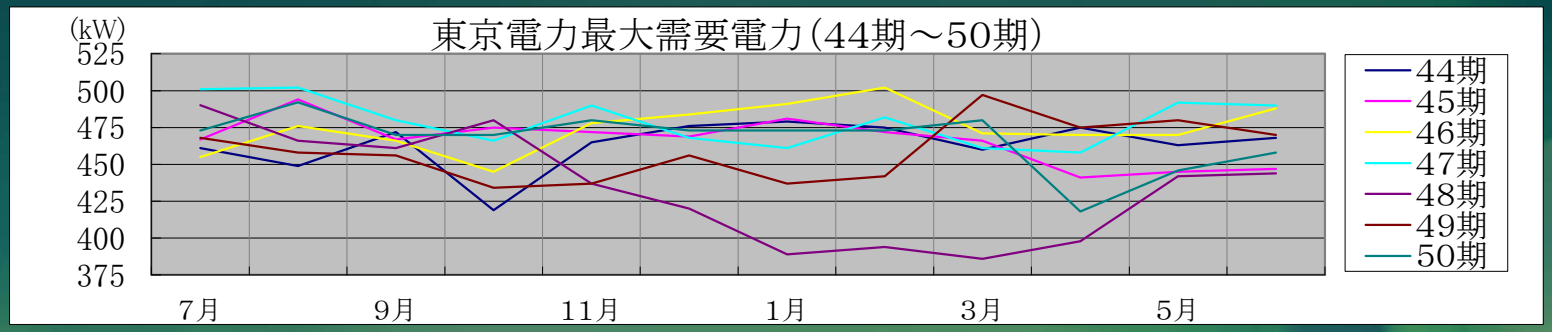
２．二酸化炭素排出量の削減への取組結果とその評価

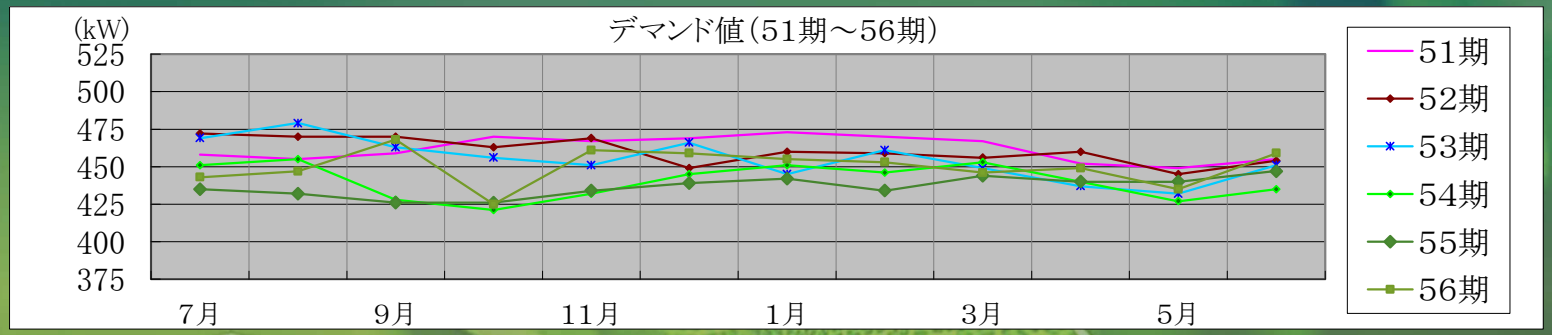
６３期目標
第5中期 実績に対し
９％減
(kg-CO_2/百万円)

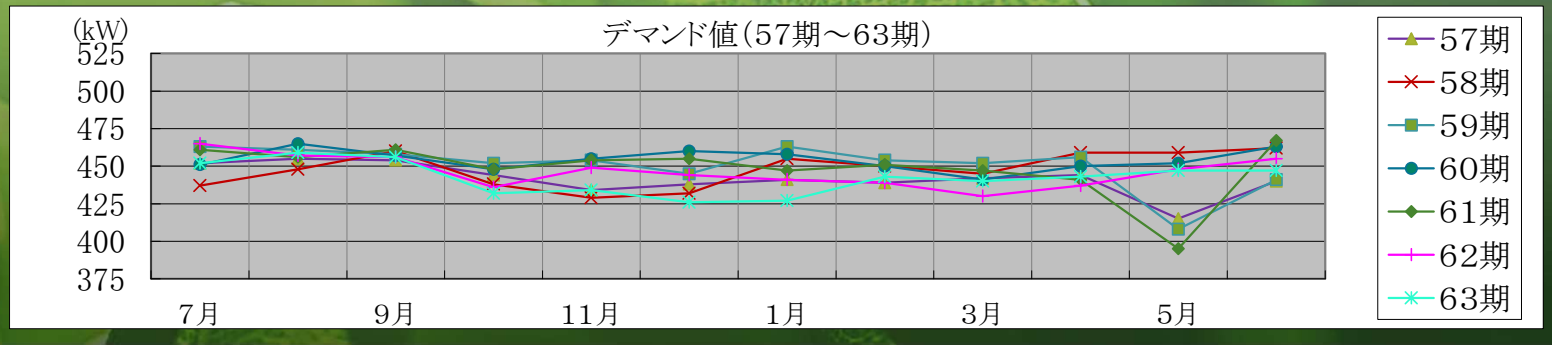
	６３期実績結果	評価
電力	△ 第5中期実績に対し 7.4%減 (kg-CO_2/百万円)	今年の使用量は、コロナ禍の影響は有るものの、9月より通常受注となりましたが、第5中期実績に対しては、 -8.5%でした。
LPG	× 第5中期実績に対し 0.6%増 (kg-CO_2/百万円)	上記同様であり、第5中期実績に対して、生産重量は、13.6%と増加し、溶解(保持)炉の使用量は、-0.5%でした。

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

３．最大需要電力等の推移







Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

４．ＬＰＧの使用状況

鋳造課にて使用している燃料（ＬＰＧ）に関しては、各鋳造機毎に溶解（保持）炉があり、それぞれにガスメーター（単位：㎥）が設置されている為、鋳込重量１ｔ当たりの原単位にて管理しています。
加工課と食堂は、各１台のガスメーターにて監視しています。

《MEMO》

ＬＰＧ(ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ)

2009年10月にﾌﾞﾀﾝ･ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽからﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽに変更しました。

バルクタンク
- 湯洗浄（温水）【加工課】
- 溶解（保持）炉【鋳造課】

ボンベ
- 金型の予熱　【鋳造課】
- 食　堂

単位：kg（湯洗浄～金型の予熱）
単位：m^3（食堂）

$1m^3$＝2．07kgとして換算しました。

溶解（保持）炉のガスメーターです。

《MEMO》
鋳込重量とは、金型に充填されたアルミの重量で、製品部重量と製品部以外（湯口部、ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ部等）の総重量です。
尚、製品部以外は、再溶解して、原材料として使用されています。

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

５．廃棄物排出量の削減

（０）ごみの分別化の定着を目指して、４５期のＥＡ２１推進会議にて分別方法を見直しの協議をして、決定しました。

（１）木パレ納入業者への返却の徹底を推進をしています。
（２）ダンボールの再利用を推進をしています。
（３）廃棄物から有価物への転換を推進をしています。

６３期目標	６３期実績結果	評価
第5中期実績に対し ５％減 （kg/百万円）	廃棄物 ○ 第5中期実績に対し 12.2％減 （kg/百万円）	今年の一般・産業廃棄物の排出量は、第5中期実績に対して、-13.2%でした。

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

６．水資源投入量(総排水量)の削減

（１）冷却水循環施設の設置【2006年11月設置】
金型冷却に使用した水の再利用を実施しています。

《MEMO》
夏期には、冷却能力と地下水の揚水との電力関係で再利用せずに放流する水量が多くなっています。

（２）水資源の『無駄使い防止』の掲示をしています。

《MEMO》
夏期（２０１１年７月より）には、検査場の屋根に地下水を散水し、電力使用量を抑制する為、水量が多くなっています。

（３）散水・放流方法の見直しをしています。

６３期目標
第６２期 実績に対し
１％減
(㎥/百万円)

	６３期実績結果	評価
水資源	○ 第62期実績に対し 2.3%減 (㎥/百万円)	今年の水資源投入量(総排水量)は、機械加工後の洗浄への使用が増加の為、第62期実績に対して、＋2.8%でした。

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

７．法令遵守の整備

環境活動計画の内容	実績結果	評価
必要な資格の整備をする。	△	必要な資格の整備は進展し、届出等も計画的に実施しました。
届出の確認(届出の提出)をする。	○	

（１）環境関係の資格の取得状況（1/2）

資格制度名		62期までの取得者数	63期の取得者数	取得者総数
公害防止管理者	(大気関係第一種)	1(名)	0(名)	1(名)
	(水質関係第一種)	1(名)	0(名)	1(名)
	(騒音・振動関係)	1(名)	0(名)	1(名)
	(ダイオキシン類関係)	1(名)	0(名)	1(名)
公害防止主任者(騒音・振動関係)		1(名)	0(名)	1(名)
エネルギー管理士		1(名)	0(名)	1(名)
エネルギー管理員		1(名)	1(名)	2(名)
特別管理産業廃棄物管理責任者		1(名)	0(名)	1(名)
毒物劇物取扱者(一般)		1(名)	0(名)	1(名)

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

７．法令遵守の整備

（１）環境関係の資格の取得状況（2/2）

資　格　制　度　名		62期までの取得者数	63期の取得者数	取 得 者 総 数
衛生管理者		３(名)	０(名)	３(名)
安全管理者		１(名)	０(名)	１(名)
電気工事士(第二種)		１(名)	０(名)	１(名)
危険物取扱者	(甲種)	２(名)	０(名)	２(名)
	(乙種１類)	１(名)	０(名)	１(名)
	(乙種３類)	１(名)	０(名)	１(名)
	(乙種４類)	４(名)	０(名)	４(名)
	(乙種５類)	１(名)	０(名)	１(名)
	(乙種６類)	１(名)	０(名)	１(名)
防火管理者(甲種)		２(名)	０(名)	２(名)
天井クレーン定期自主検査者安全教育修了者		１(名)	０(名)	１(名)
プレス機械作業主任者		１(名)	２(名)	３(名)
フォークリフト運転技能講習修了者		３４(名)	０(名)	３４(名)
玉掛技能講習修了者		１１(名)	２(名)	１３(名)
救命講習修了者(消防)　(普通:新規, 再講習)		６８(名)	０(名)	６８(名)
熱中症対策アンバサダー講習修了者		０(名)	２(名)	２(名)

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

８．有害化学物質使用状況の把握とその適正管理

（1）ＳＤＳ（安全データシート）による確認

※対象となる有害化学物質は確認できませんでした。

９．排水処理施設の設置　【2007年1月設置】　【2010年5月能力アップ工事】

１０．その他の環境活動等

（１）感謝状と記念品を拝受【2016年12月】

感謝状

コーラゴーキン株式会社 様

貴組織は長年にわたり環境省が策定したエコアクション21に取り組み地球と地域の環境保全に貢献されましたによって記念品と贈り感謝の意を表します

平成二十八年度

一般財団法人 持続性推進機構
エコアクション21中央事務局
理事長 安井 至

（２）感謝状を拝受【2017年3月】

住宅目前 飛び火消火

深谷市消防本部 会社に感謝状

強風下、社員が協力

〖埼玉新聞2017年3月14日版〗

感謝状

コーラゴーキン株式会社 様

貴事業所は平素から消防行政に深い理解を示され平成二十九年一月十七日十九時五分頃深谷市中瀬地内で発生した火災において的確な消火活動を職員一丸となって行った功績は多大でありますのでここに深く感謝の意を表します

平成二十九年三月七日

深谷市消防本部
消防長 大谷 政春

Ⅵ. 環境活動の取組結果とその評価

１０．その他の環境活動等

（３）注水厳禁の表示【2008年5月設置】

《MEMO》
鋳造工場は、工業炉があり、“注水厳禁”エリア（水蒸気爆発の懼れ）の為です。

（４）救命処置(心肺蘇生法とＡＥＤの使用)の訓練【2020年1月6日第５回実施】

（５）環境活動等の啓蒙

※【2010年7月9日より】

Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

環境関連法規の遵守状況は、７月２３日に確認しました。その結果は、下表のとおりでした。

主な適用法規	該当する活動	遵守状況
騒音規制法・振動規制法	特定施設の届出 規制基準の遵守 公害防止監督者等の選任・届出 公害防止主任者等の選任・届出	自主測定で若干規制値外 騒音抑制への計画検討中
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産廃業者との契約締結 マニフェスト管理 マニフェスト交付等状況の報告	遵　法
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別処置法	ポリ塩化ビフェニル使用製品の使用状況の届出	遵　法
水質汚濁防止法 （埼玉県生活環境保全条例）	排出基準の遵守 排出水の測定	遵　法
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律	定期報告書の作成・報告（電子提出） 中長期計画書の提出（電子提出） エネルギー管理統括者選任・届出 エネルギー管理企画推進者選任・届出 エネルギー管理員選任・届出	遵　法
地球温暖化対策の推進に関する法律	ＧＨＧ算定排出量の報告(上記定期報告書による)	遵　法
埼玉県地球温暖化対策推進条例	地球温暖化対策計画作成・報告・公表	遵　法
埼玉県生活環境保全条例 （地下水の採取規制）	揚水施設使用等の届出（変更） 地下水採取量の報告（電子提出）	遵　法

Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

主な適用法規	該当する活動	遵守状況
消防法 (深谷市火災予防条例)	少量危険物の取扱 消防活動阻害物質の貯蔵、取扱(指定数量未満) 炉設置の届出 消防訓練計画の通知	遵　　法
浄化槽法	法定検査 保守点検 清掃	遵　　法

過去１７年間、関係機関等からの指摘はなく、違反、訴訟等も１件もありませんでした。

環境関連法規は、環境関連の書籍及び関係機関のホームページ等にて確認しました。

Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期は、コロナ禍による受注状況等の変化により、環境目標が未達成となっている。周囲の状況に合わせ、目標達成に向け計画を推進する。

（１）製造の各部署は、設備稼働率を上げるカイゼンに努める。
（２）工場の５Ｓを推進する。
（３）カーボンニュートラルに向け、目標を追加する。

Ⅸ. 次年度の取組内容

１．二酸化炭素排出量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

（１）設備稼働率の向上を図るため、専任者の保全活動
（２）コンプレッサーの稼動状況の管理と点検・修理を実施(エアー漏れ対策)
（３）溶解(保持)炉の効率向上は、ガス・空気の比率の見直しを実施(更新・補修を含む)
（４）ダイカストマシン周辺機器の新設(ランナー加圧システム)

２．廃棄物排出量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

（１）木パレ納入業者への返却の徹底
（２）ダンボールの再利用
（３）資源ごみの産業廃棄物から有価物での処理

３．水資源投入量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

（１）冷却水循環施設による金型冷却に使用した水の再利用を実施
（２）節水の徹底は、『無駄使い防止』の掲示
（３）散水・放流方法（量・時間等）の見直し

４．法令遵守の整備

（１）必要な資格の整備
（２）届出の確認（届出の提出）
（３）資格等の取得（教育）

５．有害化学物質使用状況の把握とその適正管理

（１）ＳＤＳ（安全データシート）等による確認（新規・代替購入品は、事前確認）